

6月のくらし

夏の健康を守る運動
学童のむし歯予防
つゆどきは栄養と休
息が大切

広報かわにし

発行所 川西町役場 編集人 星名四郎
発行所 川西町役場 印刷所 星名四郎
(町長 中村壮吉) 印 白南風社
1部5円

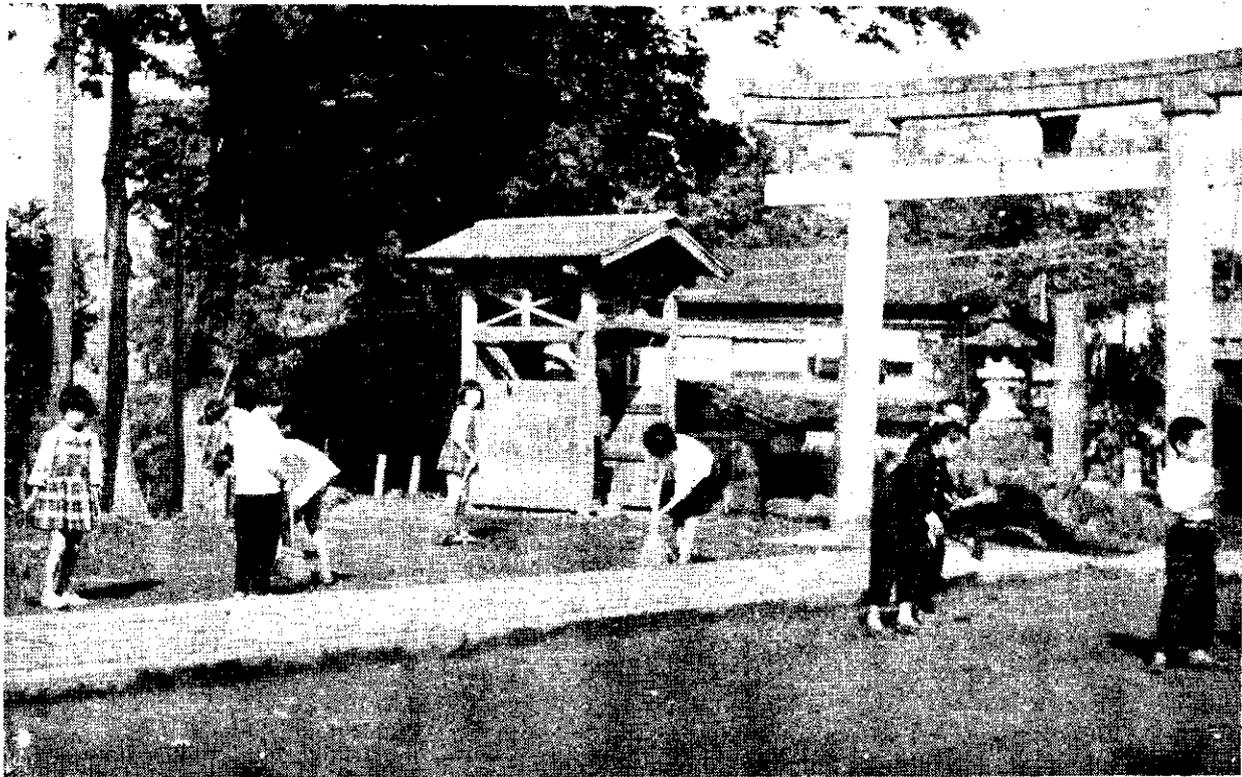
一人口の動き一

6月1日現在

男 6.582人
女 6.840人
計 13.422人
世帯数 2.690世帯

町の美化に協力しましょう (上野小こども会)

毎日曜日の朝7時半、ホウキを持って集まる子どもたちの明るい笑顔と元気な声が諏訪神社の境内にひびく。みんなの遊び場のお宮さまの境内を美しくしようという子ども会の自発的な作業がもう何年も続けられてきた。子ども会のみなさん、ごくろうさん。みんなの善意と協力が町を住みよく美しくいたします。



新生活運動写真シリーズ

六月の行事

- 一日 榊木助役送別会
- 二日 大倉火災現場視察
- 三日 郡除雪協会(十日町)
- 四日 し尿処理会議(十日町)
- 五日 上野小慰体移築設計
- 六日 県山田道路課長巡視
- 七日 定例町議会
- 九日 東京郷友会 (町長)

- 十三日 県国保連合会(町長)
- 十四日 郡農委会長会
- 十五日 県町村会 (町長)
- 十七日 社会福祉協議会
- 十八日 学校施設全国大会 町長
- 十九日 災害復旧工事の入札
- 二十日 青少年問題協議会
- 病害虫防除講習会
- 二十四日 県議長会
- 二十六日 民生委員代表者会議

婦人学級

婦人学級に面三度出てみて、学級生のかたがたの意欲がさかんなので驚いている。

意欲をもちやされる理由のすべて

まではおしはかれないが、これからは回を重ねて接触を続けてゆくうち、寸暇をさいて学習する学級生のみなさんの目的をつかみとれるようになるうと楽しみにしているのだが……

町づくり

カ月の体験から、婦人たちの意欲のなかに、子どもに対する愛情が大きく位置をしめしていると知って考えることが多い。

おかあさんたちが子どもを中心なのは、いつの時代も、どこに行っても変わらない永久の姿なのには言ってもいいことです。

そのおかあさんたちの学習の場である婦人学級であれば学習内容にいろいろ異なる点があつていても、やはり、子ども中心の、子どもの成長にどこかの時点でつながりのあるのは、また、当然のことかもしれません。

おかあさんたち自身を高めよう

とする学習内容がたくさんあることも聞いております。そういう学習も、一見子どもとは無関係に見えるても、実は、良い母でありたいという姿をしはせていることに気づきます。

そんなおかあさんたちが、婦人学級の一時間一時間を非常に大切にしている点にも考えさせられます。五分おくれで顔をだしてもとても気がひけてきます。それと終了予定時間を守らなければということ、たとえば、ある学級では、次回の学習を夜八時半から始めて九時半には終えるようにという希望でした。養蚕が始まったからなのです。夕食のあとしまつを終えた一時間でも、みんなが集まって学習しようという意欲、学級が終わったら帰ってすぐ養蚕の仕事がまわっているのでしょう。ご苦労さまと頭がさがります。

子どもついでに学習しているおかあさんもおかあさんです。黒板にむかっている背に、そんな子どもさんのひとりが「おじさん」と声をかけてくるのです。ちょっと表現しにくいような気持がぐっと胸にきます。そして、愉快だなあと、思い、がんばろうと思うのです。

保健衛生 年一回のX線間接撮影を受けよう
 間接撮影を次の日取りで計画しましたから指定された会場で受けてください。

X線間接撮影計画表【昭38第一次分】

項目	曜日	時間	会場	実施地区	備考
6・18	火	前10~11:30	沖立倶楽部	沖立	
18	火	後1~3	霜条倶楽部	霜条 坪山 鶴吉 平見	
19	水	前10~11	元町公民館	元町	
19	水	後1~4	上野連絡所	上野	
20	木	前10~11	下平作業所	下平新田	
20	木	後1~3	三領公会所	三領 小根岸	
22	土	前10~11:30	取安神社前	原田 根深 下原	レントゲンカー
22	土	後1~3	新町公民館	新町新田 田代	
24	月	前10~11:30	田戸公民館	田戸	
24	月	後1~3	室島公民館	室島	
25	火	前10~11:30	伊友公民館	伊友	
26	水	後1~3	千手診療所	永久公舎 中島町 山野田 発電所通り	
27	木	後1~3	千手診療所	下平 四郎兼 東善寺	
28	金	後1~3	橋診療所	仁田	
29	土	後1~3	橋診療所	野口 塩辛	

1. 小・中学生は学校で実施 脱学前幼児は除く。
2. この表は才一次分で、この外の地区は追って通知。
3. カードはお忘れなく持参のこと。

◎自分のからだは自分で健康管理
 ◎健康な家庭明かるい生活

やわらかな陽光をあびて、木々の新芽や、若草のもえる四月末、桶婦人会有志が地区会員皆さまからの暖かい贈りものを持参して、水沢の養老院を慰問いたしました。土市から徒歩にて約十五分、両側に一本一本きれいに植えてある杉苗や、イチゴ畑の手入れに並々ならぬ苦労と努力が深くつかわれま

した。杉の小立ちをぬける、あちちと目を見はる、道々考えていた養老院とはぜんぜんちがいが、とても明るいモダンな建物でございました。小じりを敷きつめて、池あり花だんあり、お庭の手入れもよく行きとどいています。中にはいらいますとすぐ事務所に

なかに寝たっぎりの人もいらっしやいましたし、またトード(日雇)に出ている方もありました。ある七十四才になる元気なおばあさんは、あすからイチゴの草取りに頼まれて出ると申していらっしゃいます。また七十一才になるおばあさんは、せんまいをムシロに干しながらわたしはせんまい取りが好き

養老院を慰問して

桶婦人会大 平 キ

部落だより

毎日、うつつましい日つつましくなにかあって、みどりの色がまじってきます。今月は千手中屋敷地内をたずねてみました。二十三日午前一時半ごろ、長福寺沢溜池が決壊。現地にいってまず驚いた。すでに田植えの五割近くが植えつけが終わった矢先、この思いがけない出水に、大きな被害をうけた農民の表情は暗い。

この溜池は、二十八年に二千二百余万で完成、百七十戸の農家が、七十ヘクタールに近い水田に使っていたものだといふ。はっきりした原因を調査中というが、当惑する農民たち、耕地の半分がこの場

所であって、被害をうけ仕事する気力もなくなったといふ。年若い人の姿を思うと、まったく気のどくでならない。そしてまた、水道の水源地でもあり、全使用者が断水、小学五年生の男の子は、楽しみにしている給食ができなくなって、とてもさびしいと話してくれた。とかく、人のウワサや話には、大きく広がるもの、うわべだけの同情でなくして、被害にあった人のどくな人に、みんなであたたいい気持で接し励ましのことばをかけてやってくれたい。



張りで気持ちがよいし、毎日を中心から感謝していますと、話してくれました。造花の内職をしていたおばあさんが、ほんとうにぎょうふはあがりうございましたと、手をつかれ、また来てくださるとさびしそうにいわれたときは、熱いものがシーンとこみ上げてきました。

みなさんのようにお顔をみながら午後おいとまいたしました。身よりのないさびしい老人を少しでもおなごさめできたことを、心からうれしく、語りあひながら帰途につきました。

しかし雪が消えるともに出でくるとはまず家の掘り上げさきからゴミ、ゴミです。この冬ごもり中のゴミに加えて春の清掃で秋の落葉まできたないゴミになるのですから、春のゴミが目にあまるのは当然です。先月本母「町の声」氏のお説まいたくごもつともです。町としてもゴミ、ケケン物し尿及び下水の処理について考えなければならぬ時期にきています。これは十分承知しているのですが、さらに緊急を要する教育、交通災害復旧等の事業が山積している状態です。生活文化の向上とともにゴミがたかさんでくる、生活環境をよくするためにどうした人間の健康な生活を営むにシヤマなものはすみやかに完全に処分さ

ゴミ処分にお答え

長い憂うつな冬の雪の中で、たれしが待っているのは若葉の春

（国保衛生課）

きれいな環境

主婦農業の将来と問題点

田 辺 信 一
(生活科学調査会)

※進む農業の女性化

農家人口の急速な流出によって農業労働はいやおうなしに主婦や老人の肩にかかっています。

昭和三十七年度「農業年次報告」

によれば、農業の女性化は前年よりいっそう進み、農業専従者だけをみると昭和三十五年には男子四十八パーセント、女子五十二パーセントと増加しているとの報告がされています。さらにこれを経営規模別にみると、小規模経営の農家は女子の比率が高くなり、三反未満では六十五パーセント、三反五反では六十一パーセントにも達しています。

※婦人の地位は上ったが

しかしいっぽう、これにもっとも強く影響を受け、ある意味ではこの日本農業の「受難期」に、農業を双肩になわなければならぬ主婦の立場から見ると、単に生産力や農業政策のあり方などというおれな多岐の問題をはらんだ戦後農村に根づくやうに残った封建的な残りは、地域変

もできるが、婦人は仕事を脱ぐ間もおそしと大急ぎで家にかげ上って、子どもに乳を含ませながら、暗い寒い台所で鍋釜の下に炊きつけなければならぬ」この当ても一年間千二百時間以上農業に働く家族従事者の比率は、男子五十一パーセントに対して、女子四十九パーセントとなっていました。(昭和七年「農家経済調査」)

※労働で傷つく母体

今は朝起きる時間もおそくなり夜はテレビにくつろぐこともできます。しかし、日本の農村婦人の重労働は、そう減少してはいないようです。稲作農家はもとより、とくに果樹、野菜園芸、酪農などではもっとはげしい労働がおこなわれています。機械がはいり、消毒も楽になり、金肥が使える、草取りが軽減されても、なおいそがしいのです。ことしの農協婦人大会でも、このようなことがとくに婦人の健康の問題として大きくとりあげられました。

※現金消費に追われる

はげしい社会変化のなかで、たしかに農村婦人の生活は変わったとはいえるものの、そこにはこれまでの自給自足の経済の崩れかといふ大きな変革が進んでいます。いままで自分の作ったものを食べ、現金がなくとも暮らしていた生活が、いまは根底からくつがえされ、農家も現金なくては一日も暮らしていくことができません。日常の衣食住からテレビ、洗濯機などの耐久消費財、燃料、教育費、何よりも生産を上げるための機械の購入費、肥料、そして多角経営のための設備資金、限られた農作物の収入でまかないきれなければどうしても現金を求めて、たれかが外に出ていく以外にないでしょう。一台の耕運機を入れればひとりが出かせきにく、というむじゆんした現実がいっぱい起っているのです。そして手のかわりにさらに機械を、雇い人をいうことになると、また現金が必要になってくる。出ていくのは給料を多くもらえる男と若い娘、残るのは主婦と老人というすがきは、日本のすべての農村で進行しています。しかも、去年は一町五反でも出ていたが、こころは二町でも出かせきにくというように、すでに兼業は上層にまで及んでいます。もちろん現金消費は、このように迫りまわされるものばかりではありません。もっと生活を便

※労働を軽くし、子どもを守るには

主婦農業といふことは自分の間無くなりそうにありません。日本の工業化の過程がつづかきり農家の人口は流出をつづけるでしょう。

※労働を軽くし、子どもを守るには

また子どもを安心して生める母子センターや、あすけられる保育所の設置は働く農村婦人の手によってもっともっと地域や自治体とともに押しすすめられるべきでしょう。その意味でいまもっとも求められているのはやはり婦人が地域で手を結んでいくことです。金に追われ、仕事に追われ、主婦農業でなく、主体をもった働く母親としての生き方が夫のためにも、子どものためにも、そして日本の婦人自身のためにも、今は求められているのです。

るのには農村がますます、農業がワリに合わないからです。現金はよそでかせいで、米は婦人が作るという状態は、ですからほんとうに不自然なことです。もちろん、ここで「婦人よ家庭に帰れ」というのではありません。もっと好い条件で、都市に住む人も農村に住む人もそれぞれ仕事を生きがいとし、そこで得た収入で自由な平和な生活をたのしむことがたれにとっても最大のねがいなのです。

※現金消費に追われる

はげしい社会変化のなかで、たしかに農村婦人の生活は変わったとはいえるものの、そこにはこれまでの自給自足の経済の崩れかといふ大きな変革が進んでいます。いままで自分の作ったものを食べ、現金がなくとも暮らしていた生活が、いまは根底からくつがえされ、農家も現金なくては一日も暮らしていくことができません。日常の衣食住からテレビ、洗濯機などの耐久消費財、燃料、教育費、何よりも生産を上げるための機械の購入費、肥料、そして多角経営のための設備資金、限られた農作物の収入でまかないきれなければどうしても現金を求めて、たれかが外に出ていく以外にないでしょう。一台の耕運機を入れればひとりが出かせきにく、というむじゆんした現実がいっぱい起っているのです。そして手のかわりにさらに機械を、雇い人をいうことになると、また現金が必要になってくる。出ていくのは給料を多くもらえる男と若い娘、残るのは主婦と老人というすがきは、日本のすべての農村で進行しています。しかも、去年は一町五反でも出ていたが、こころは二町でも出かせきにくというように、すでに兼業は上層にまで及んでいます。もちろん現金消費は、このように迫りまわされるものばかりではありません。もっと生活を便

※労働を軽くし、子どもを守るには

また子どもを安心して生める母子センターや、あすけられる保育所の設置は働く農村婦人の手によってもっともっと地域や自治体とともに押しすすめられるべきでしょう。その意味でいまもっとも求められているのはやはり婦人が地域で手を結んでいくことです。金に追われ、仕事に追われ、主婦農業でなく、主体をもった働く母親としての生き方が夫のためにも、子どものためにも、そして日本の婦人自身のためにも、今は求められているのです。

※労働を軽くし、子どもを守るには

また子どもを安心して生める母子センターや、あすけられる保育所の設置は働く農村婦人の手によってもっともっと地域や自治体とともに押しすすめられるべきでしょう。その意味でいまもっとも求められているのはやはり婦人が地域で手を結んでいくことです。金に追われ、仕事に追われ、主婦農業でなく、主体をもった働く母親としての生き方が夫のためにも、子どものためにも、そして日本の婦人自身のためにも、今は求められているのです。

※労働を軽くし、子どもを守るには

また子どもを安心して生める母子センターや、あすけられる保育所の設置は働く農村婦人の手によってもっともっと地域や自治体とともに押しすすめられるべきでしょう。その意味でいまもっとも求められているのはやはり婦人が地域で手を結んでいくことです。金に追われ、仕事に追われ、主婦農業でなく、主体をもった働く母親としての生き方が夫のためにも、子どものためにも、そして日本の婦人自身のためにも、今は求められているのです。

※労働を軽くし、子どもを守るには

また子どもを安心して生める母子センターや、あすけられる保育所の設置は働く農村婦人の手によってもっともっと地域や自治体とともに押しすすめられるべきでしょう。その意味でいまもっとも求められているのはやはり婦人が地域で手を結んでいくことです。金に追われ、仕事に追われ、主婦農業でなく、主体をもった働く母親としての生き方が夫のためにも、子どものためにも、そして日本の婦人自身のためにも、今は求められているのです。

また子どもを安心して生める母子センターや、あすけられる保育所の設置は働く農村婦人の手によってもっともっと地域や自治体とともに押しすすめられるべきでしょう。その意味でいまもっとも求められているのはやはり婦人が地域で手を結んでいくことです。金に追われ、仕事に追われ、主婦農業でなく、主体をもった働く母親としての生き方が夫のためにも、子どものためにも、そして日本の婦人自身のためにも、今は求められているのです。

上野の大工殺し (続)

男が、うつむけに倒れている。もしやと思つて治三郎が引き起すと、思ったとおり常七であり、呼んでも揺り動かしたも動かない。常七は死んでいたので、長安寺へ駆けこんだ治三郎から親方の久米七に、久米七から村役人の喜左衛門(庄屋)へ、そしてさらに山谷の酒井忠之助(大肝煎)を経て柏崎代官所へと急使がとんでいった。

ふるさとをさぐる ⑨

この大騒ぎの中で、上野の村役人たちは何か内輪の話で済ましたいと考へて、八方知恵をめぐらした。久米七師匠をなだめ、治三郎に言ひくめ、果ては大肝煎の酒井忠之助のところへ日参して指示を仰いだ。

この間の事情は、七月八日朝の第一報から十月末に至る四十件余の書類から十分察することができ、もつとも難しかったのは常七の親である金蔵の取扱いであった。常七横死の知らせを受けた金蔵は、ビツクリしている余裕さえなく直ちに地元の代官所へ届け、かつ親類や町の五人組・名主など

に相談して上野へ駆けつけることになった。もちろん、息子は殺されたんだ、下手人を捕えようらみを吐きつけてやるという思いでいっぱいであつたらう。「どんな様子であつたか、そのままの死体を見たい」と折返し使いが上野へ戻つて来た。

久米七たちも同じ気持ちで、寺内の観音堂へ死体を塩詰にした桶を置き交代で番をしたが、また暑い中であり、耐えられない臭気だつたと故老の物語りにある。

金蔵をようやく弔金の形で納得させること、こんどは役人様たちの本格的な取調べがある。

柏崎代官所とは比較にならない上野村ではとても問題にならない。村は、文字通りの大騒ぎであつた。

この大騒ぎの中で、上野の村役人たちは何か内輪の話で済ましたいと考へて、八方知恵をめぐらした。久米七師匠をなだめ、治三郎に言ひくめ、果ては大肝煎の酒井忠之助のところへ日参して指示を仰いだ。

この間の事情は、七月八日朝の第一報から十月末に至る四十件余の書類から十分察することができ、もつとも難しかったのは常七の親である金蔵の取扱いであった。常七横死の知らせを受けた金蔵は、ビツクリしている余裕さえなく直ちに地元の代官所へ届け、かつ親類や町の五人組・名主など

戸籍の窓から

うぶ声—御すこやかに

柄沢マチ子	寅由長女	沖立	佐藤フサ	藤沢	六三
平野裕幸	久雄二男	四郎兼	高橋英治	高橋	五六
引間恵子	健二長女	坪山	柄沢和作	山野	五四
星名仁	忠夫二男	伊友	中嶋直大	田代	〇
市川伸	松男長男	中屋敷	たかさご—御円満に		
田辺裕子	芳松三女	高原田	高橋隆一	坪山	
小林功	初一長男	中屋敷	清水トシエ	上野	
増田ひろみ	義則長女	電所通	高橋力夫	高原田	
山家えり子	和平二女	上野	窪田ケイ	伊友	
山中誠	英雄長男	仁田	喜多栄一	東善寺	
山田昭子	弘一長女	仁田	野野美恵	十日町	
須藤晴美	良平長女	下原	小林英男	中屋敷	
村越憲二	辰雄二男	野口	荒海幸子	永公	
登坂武晴	武雄長男	赤谷	清水進	下平新田	
高橋修	迪夫三男	高倉	生越カズ	十日町	
小野塚辰三郎	田中	八三	羽鳥実	仁田	
高橋サカ	赤谷	七七	高橋フジエ	仁田	
江口ソモ	小日倉	七六	丸山長一郎	下原	
南雲ムメ	中仙田	七五	小山スミエ	桐山	
押木勇松	田戸	七四	小林正信	中仙田	
高橋藤松	高倉	七三	佐藤一枝	藤沢	
川崎ハル	越ヶ沢	六七	南雲亨	中仙田	

昇天—御めい福を祈る

新婦	高橋陽子	高倉
新婦	江口克巳	小日倉
新婦	中村恵美子	大日倉
新婦	長谷川益男	赤谷
新婦	辰田智津子	石川
新婦	中村益雄	大日倉
新婦	中村静江	大日倉

郡市中学陸上大会開かれる

五月二十二日、三百七十人の選手が参加して吉田中グラウンドで開き、五種目に大会新記録が生まれ、一位入賞者次のとおり

男子八十メートル 登坂良一(仙田) 十二秒七 大会新

三種競技 佐藤隆(仙田)

女子 百メートル 田村夏江(川西) 十四秒四

八十メートルハードル 南雲富子(仙田) 十五秒五大会新

走高とび 高橋美佐子(仙田) 一メートル二五

砲丸投げ 高橋正代(仙田) 十メートル四六

四百メートルリレー 川西A 五八秒三

かわにし俳壇

太田白南風選

小白倉 江口凡石

〇唾の娘の一人はなれて木の芽つむ

遠足の子の列のみな夏めまで

岩瀬金子湖月

萬浦湯に唄い居る子の大人びしかげろて水草影の綾なせる

野口寅夫

かり小屋の製材工場ふきのとう

泉境の残雪見ゆる農せわし

大倉金子洋石

日蝶の二つもつれて空高し

遠足の女教師も唄いつつ

大日倉 高橋 波 杏

掻き終えし田へ三九月のかかりたる

小白倉 田中 緑 風

植え進む静かに足をはこぶ音

渡 辺

郵便局から—

お年玉忘れて

いませんか

期限は七月十九日までです。

等級 賞品名 当選番号

特賞 八ミリ撮影機三三八四七二

一等 電気そうじ機三〇九九九

二等 トランジスタ掛時計 八〇〇三四六

三等 大工道具セット 下五ヶタ 九一五九二

四等 セロハンテープ 下三ヶタ 三九八五三

五等 切手シート 下二ヶタ 〇八七・九三三

二七・三一・五八

町に掲示板

町の人事(新任)

高尾ヒサ子 川西中養護婦

登坂耕太郎 川西中使了

登坂イト 川西中使了

数藤幸子 千手保育所保母

押木京子 千手診療所看護婦

後記

里の豪雪から異常乾燥

風薫る五月が雨になやまされ、梅雨が二方に倍増かという異常天候。六月、八月は不順、秋が早くくるといふ長期予報が出ています。こころはツイテませんなキツト……こんな予想もチラホラ聞かれるきょうこのごろです。農家の皆さんの万全のそなえでこの凶予報をのり切られんことを祈ります。

五月二十日から四日間東京で全国広報研究会が開かれ、農業かわにしの高橋氏と出席しました。世まさに広報時代、週刊誌並みの広報もあり驚かされました。愛される広報へ努力したいと思ひます。

五月二十二日、三百七十人の選手が参加して吉田中グラウンドで開き、五種目に大会新記録が生まれ、一位入賞者次のとおり

男子八十メートル 登坂良一(仙田) 十二秒七 大会新

三種競技 佐藤隆(仙田)